

小布施町

「次世代型インフラの実現に向けた包括連携協定」 に関するプレス発表

2020年9月23日（水）

13:30-14:30 @小布施町役場



栗と北齋と花のまち
小布施町



Goolight



SIGMAXYZ
CREATE A BEAUTIFUL TOMORROW TOGETHER



自然電力

小布施における「まちづくり」の歴史

1970年代以降、50年間をかけて「まちづくりの先進地」として実績を蓄積

1970年代～

2000年代～

2020年代～

第1ステージ

景観を軸とした

「うるおいのあるまちづくり」

歴史を活かし、優れた景観と生活文化を生み出す、「うるおいのあるまちづくり」

- 1969年の「都市計画法」を活かしたコンパクトシティの実現、都市と農村が調和した都市構造
- 公共下水の一早い導入や景観重視の公共建築の建設、北斎館の建設
- 1980年代からの町並み集計事業、一般住宅も巻き込んだ景観まちづくりへの発展
- 1990年代の花のまちづくり、オープンガーデンなどの取り組みへの展開

第2ステージ

多様な協働を生み出す

「協働と交流のまちづくり」

交流で得た信頼ネットワークや学びを活かし、地域課題の解決に向けて協働する
“協働と交流の街づくり”

- 行政のスリム化・財政健全化を推進
- 4つの協働（町民協働、地場企業との協働、町外企業との協働、大学機関との協働）によるまちづくりの推進
- 「小布施若者会議」など町外のチャレンジの受容・協働
- スポーツを軸としたまちづくりの推進
- これらの取り組みを通じた関係人口創出

第3ステージ

次世代が中心となって進める
人口減少社会を前提とした
新たなまちづくり

防災・環境分野での取り組み推進の必要性

台風19号災害により、ハード・ソフト両面からの災害への備え（防災・インフラ）の重要性と頻繁化する災害の根本原因である気候変動（環境問題）への、責任ある対応が喫緊の課題に



台風19号で浸水したクリーンピア千曲

<https://www.asahi.com/articles/photo/AS20191015004354.html>



トウルク市・長野市との連携協定スタート（2019～）

人口減少を前提としたインフラ更新の必要性

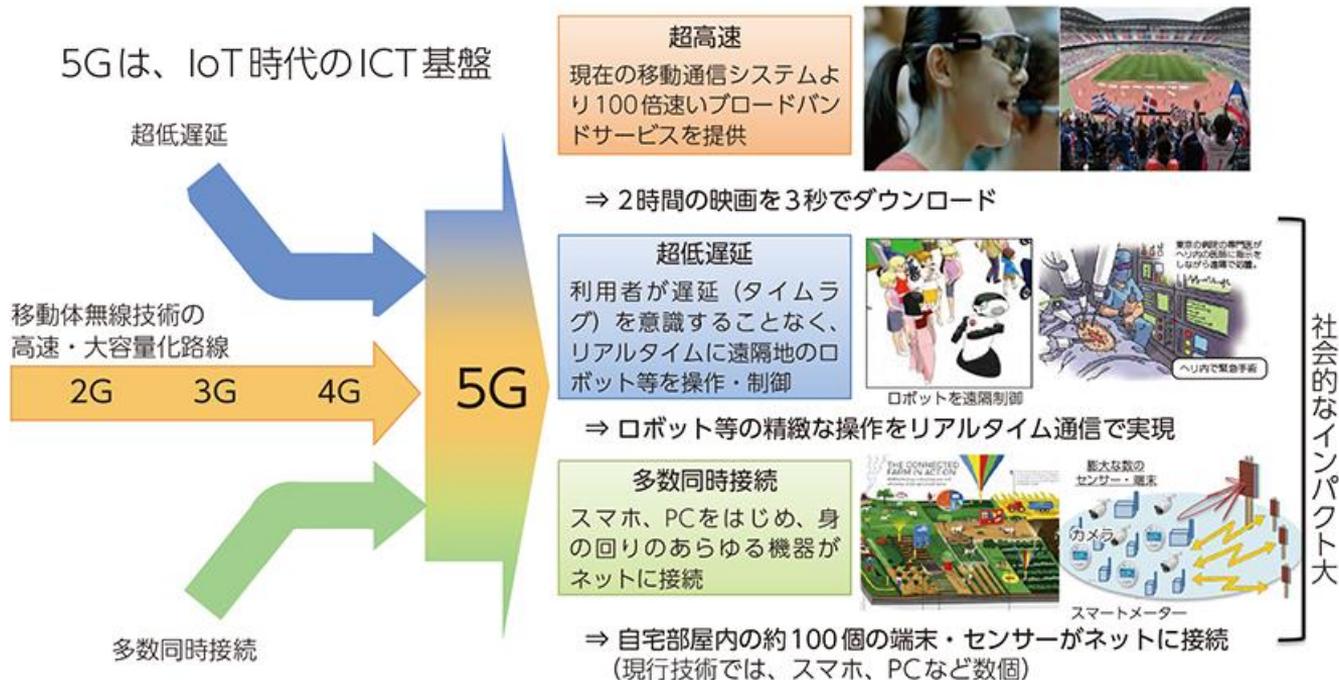
上下水道施設、文教施設等の公共施設が次々に更新の時期を迎える時代に。
人口増加時代のインフラ政策から、人口逡減を前提としたインフラ更新へのシフトが必要に。



2020年度より更新をスタートする上水道の配水池イメージ

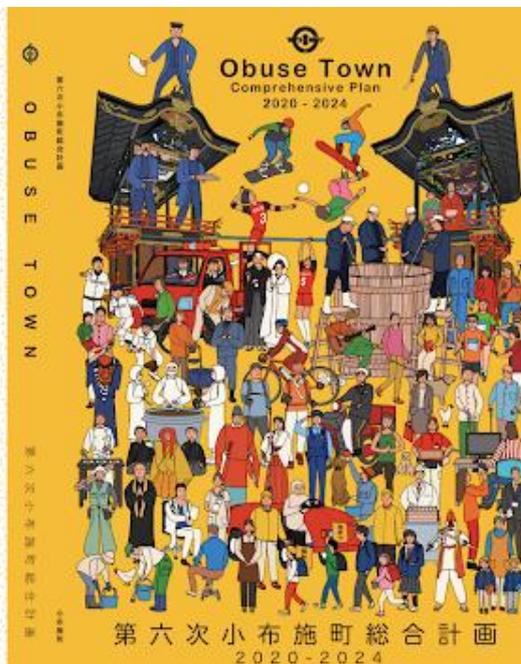
新しい「インフラ」の社会実装検討の必要性

新しい通信規格である5Gの登場、V2H（ビークル to ホーム）などの実用化など、技術革新による新しい社会インフラの実装が地域の課題に。



第六次総合計画（2020～）での位置付け

6つの分野別ビジョンの一つとして「5. 環境・防災・インフラ」を追加。
当領域に重点的に取り組む横断組織（総合政策推進室）の設立、個別施策の強化を盛り込む



「5. 環境・防災・インフラ」

①災害に強いまちづくり

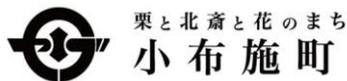
②「環境先進都市」への転換

③快適で個性豊かな生活環境の整備

④新しい時代の都市インフラ構造の研究と実践

今回の包括連携協定の狙い

- 電気・水道・通信の各領域に知見と技術、ネットワークを持つ民間企業との協働により、総合計画の目標を**実現可能な行動計画に落とし込む**
- 電気・水道・通信の各領域を個別に検討するのではなく、**領域横断での包括連携協定**とすることで、**整備費用の適正配分と、施策間の相乗効果の最大化**を実現する



「次世代型レジリエントタウン」への転換

整備開始から50年。電気、上下水道、公共施設などの公共インフラへの再投資が必要な時期

大切にしたい4つの価値観

縮小時代の公共インフラ

縮小社会にあった持続可能な公共インフラを持つまちを実現する

地球環境への貢献

地球環境に貢献する脱炭素型のまちを実現する

災害を前提とした都市構造

頻発する災害への高いレジリエンスを持ったまちを実現する

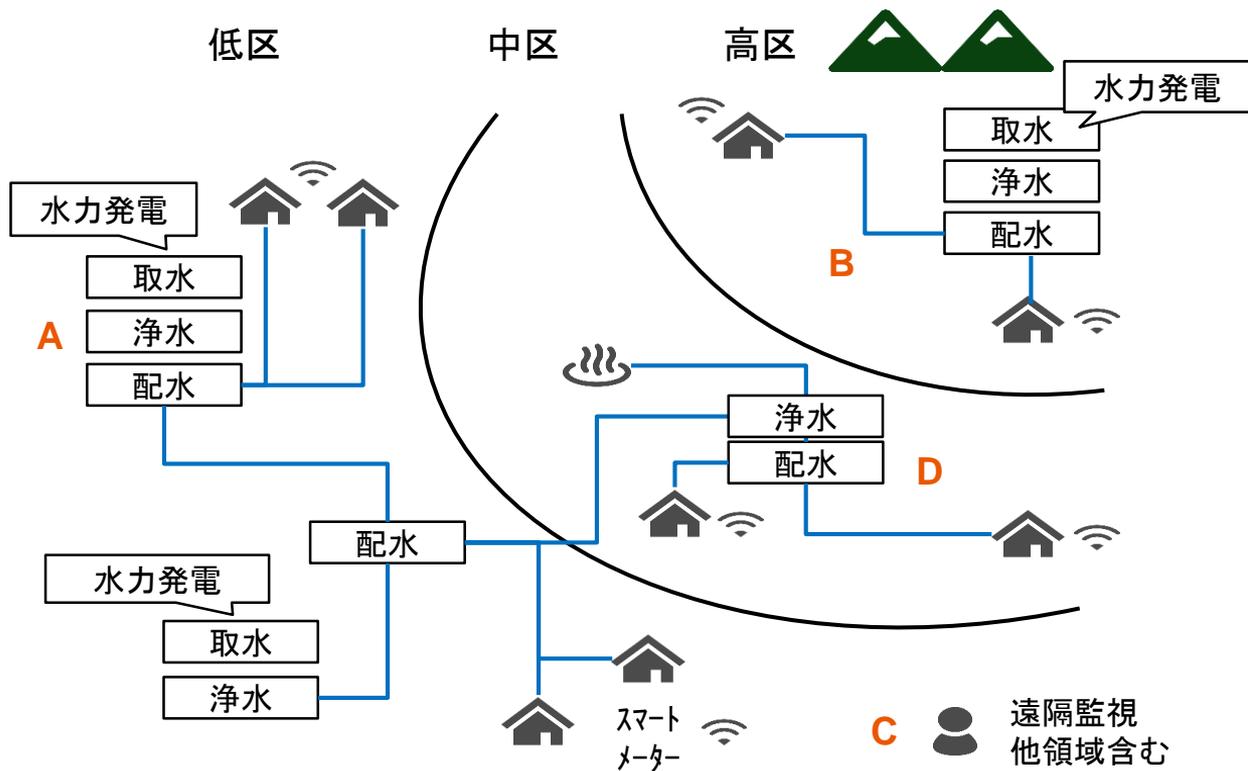
自然と文化の共生・調和

小布施の歴史や文化の特色を活かしたまちを実現する

想定される成果物（～2021年8月）

- **最終報告書**
 - 実行計画の概要
 - 収益構造
 - 運営体制
- **地図やイラストによる可視化**
 - 具体的なインフラ設備の整備計画
 - 設備同士や過程を繋ぐネットワーク（導排水・送配電）

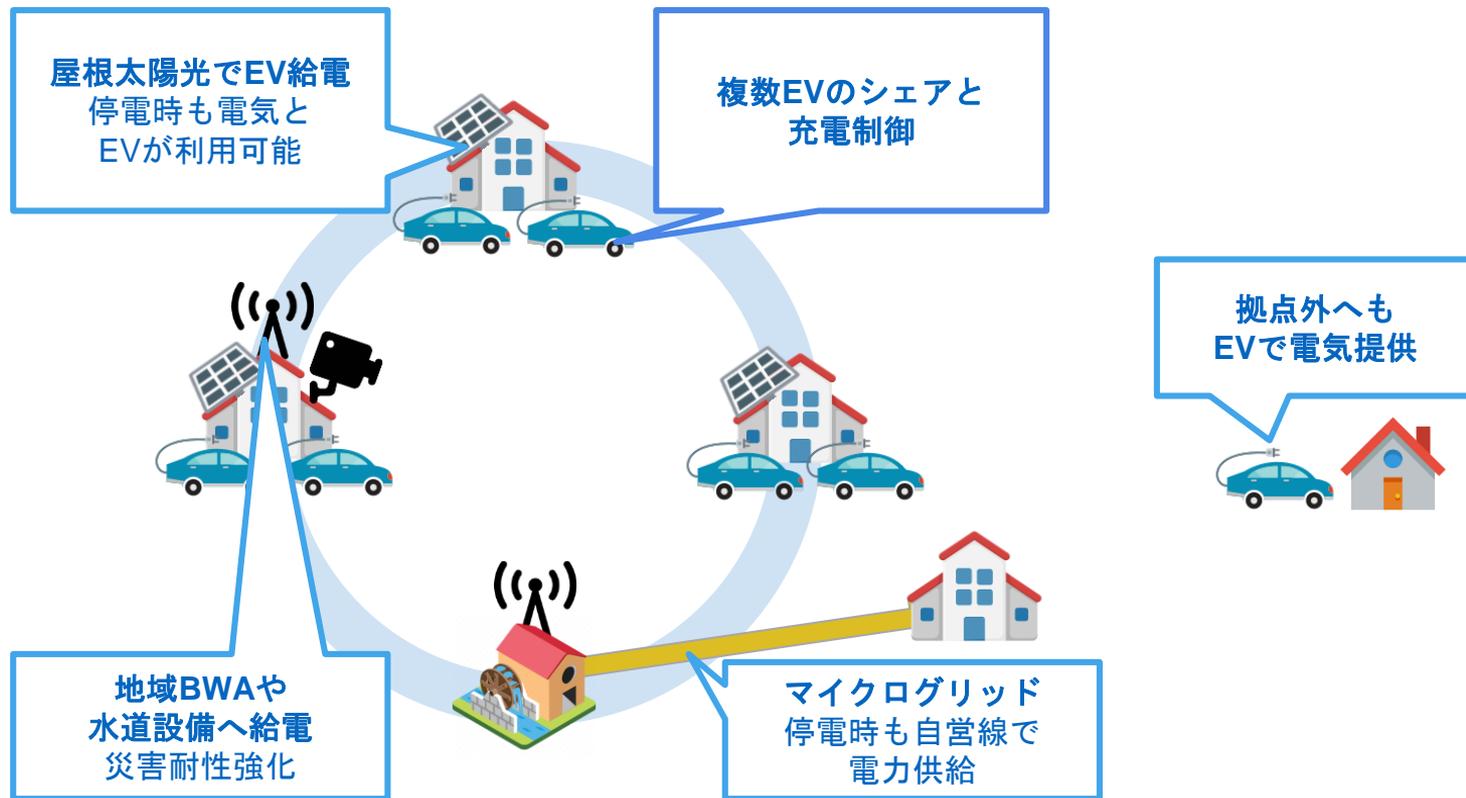
具体施策のイメージ（水道）



領域により分散化と集約化を使い分け、収益性を向上させる

- A. 多拠点生活者を対象に家賃+ライフラインコストをバンドル化し、分散化モデルを構築
(成功すれば他区にも展開)
- A. 高区は、分散型で独立させる
- A. スマートメーターと電力との統合監視で保守管理のコスト削減
- A. これまでの集中型と分散型を合わせたハイブリッドにする

具体施策のイメージ（電気）



具体施策のイメージ（通信）



地域BWA / ローカル5G 通信の整備



電気や水道インフラにおける
スマートメーター、IoTセンサーの活用

教育ICT



地域交通



ウェアラブル機器
による健康管理



医療環境の
デジタル化



スマート農業



高齢者見守り



グランドデザインの策定方針

9月

1月

3月

7月

フェーズ1

フェーズ2

フェーズ3

フェーズ4

次世代型インフラの
イメージ（全体像）
の策定

- ・「理想の姿」から
トップダウン
- ・「課題整理」から
ボトムアップ
- ・経営、水、電力、
通信の4分科会

設備や計画の
具体化

- ・全体像に応じて、
水・電力・通信の
各領域の整備設備
を検討

体制や実行計画の
作成

- ・インフラ運営体制
- ・財務モデルの算出
- ・外部からの収益
向上施策の検討

検討内容の
最終化

- ・報告書作成
- ・次年度以降に向け
た課題の整理